

## 名古屋大学屋外共通ごみ箱の見直しと効果

平成 23 年 8 月より、名古屋大学東山キャンパスの屋外共通ごみ箱の大きな見直しを実施しました。今まで敷地 698,380㎡のオープンキャンパスに 24 箇所（合計 135 個）の屋外共通ごみ箱がありました。しかし長年、分別されていないごみが入っているごみ袋のかたまりや、通常では考えられない粗大ごみ等の不法投棄が相次いでいるため、名古屋大学の大きな課題として取り上げました。その際、実際あまり利用されていないごみ箱やモラルのひどい場所についてはごみ箱の個数の見直しを段階的に行いました。また世間では排出者責任としてごみの排出に対する厳しい世の中、他の公共施設のように全面撤廃の検討もありましたが、最寄の購買店等のごみ箱に集中して場合によっては商売の運営上支障をきたしてしまうことや、ごみ箱がなくなったことによるキャンパス外周のポイ捨てによる近隣の地域住民に対する迷惑などの調整も行わざるを得ない現状もあり、大学構成員や近隣住民がよく利用される場所については、中身が見えるごみ箱に置き換えて、ごみ箱の個数の維持を図りました。中身が見えるようにした理由は、ごみ排出者側の分別意識とごみの減量化につなげて維持管理する現場の業務改善を図ることがねらいです。平成 24 年 1 月に屋外共通ごみ箱の大きな見直しについてはひと段落しました。おかげ様で利用者の方々にも少しずつ理解して頂き、長年の苦情件数が少しずつ静まりつつあるのと同時に、管理する現場側としてもごみ箱の個数の減少と蓋を開けなくてもすぐ中が把握できるなど維持管理がしやすくなったことも改めて大きな効果として現れてきて来ています。これからも現場で抱えている課題や時代とともに環境や価値観などの変化もあるため少しずつ調整や改善を行い、大学利用者のキャンパスライフや職場環境、近隣の地域住民とのよきお付き合いのサポートの一環として、よりよいキャンパスの環境保全として貢献できればと祈っています。



従来のごみ箱

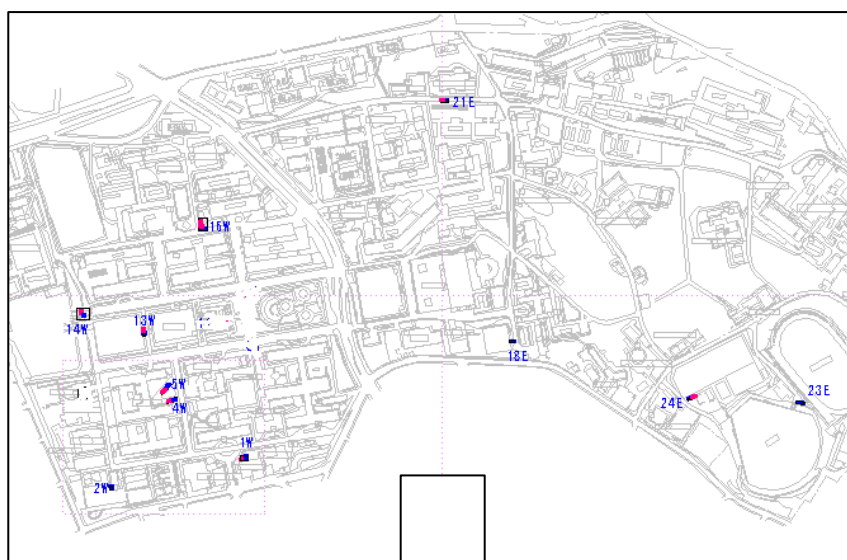
中身が見えるごみ箱  
(利用者の多い場所に設置)

## ごみ箱の設置の見直しの動き

h23.7【実施前 : 24 箇所(合計135個)】



h23.11【実施後 : 11箇所(合計61個)】



h24.1【最終段階：設置場所・個数は変えずに中身が見えるごみ箱に置き換え】

